

第4回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会

日 時：平成22年 6月 2日（水）

11：00～15：00（白糸の滝ドライブイン10時50分集合）

場 所：最上川スキー場跡地(11:00~12:00)及び戸沢村役場(301会議室 13:00~)

次 第

1 開 会

2 東北森林管理局計画部長挨拶

3 出席者の紹介

4 議 事

【1】平成21年度「土湯の森」づくり事業報告・・・・・・・・・・資料1

山取苗の植え付け

刈り払いと「幻想の森」散策

ナラ枯れ被害木の伐倒木とキノコのコマ打ち体験

モニタリング調査

「土湯の森づくり」看板設置

【2】平成22年度「土湯の森」づくり事業計画・・・・・・・・・・資料2

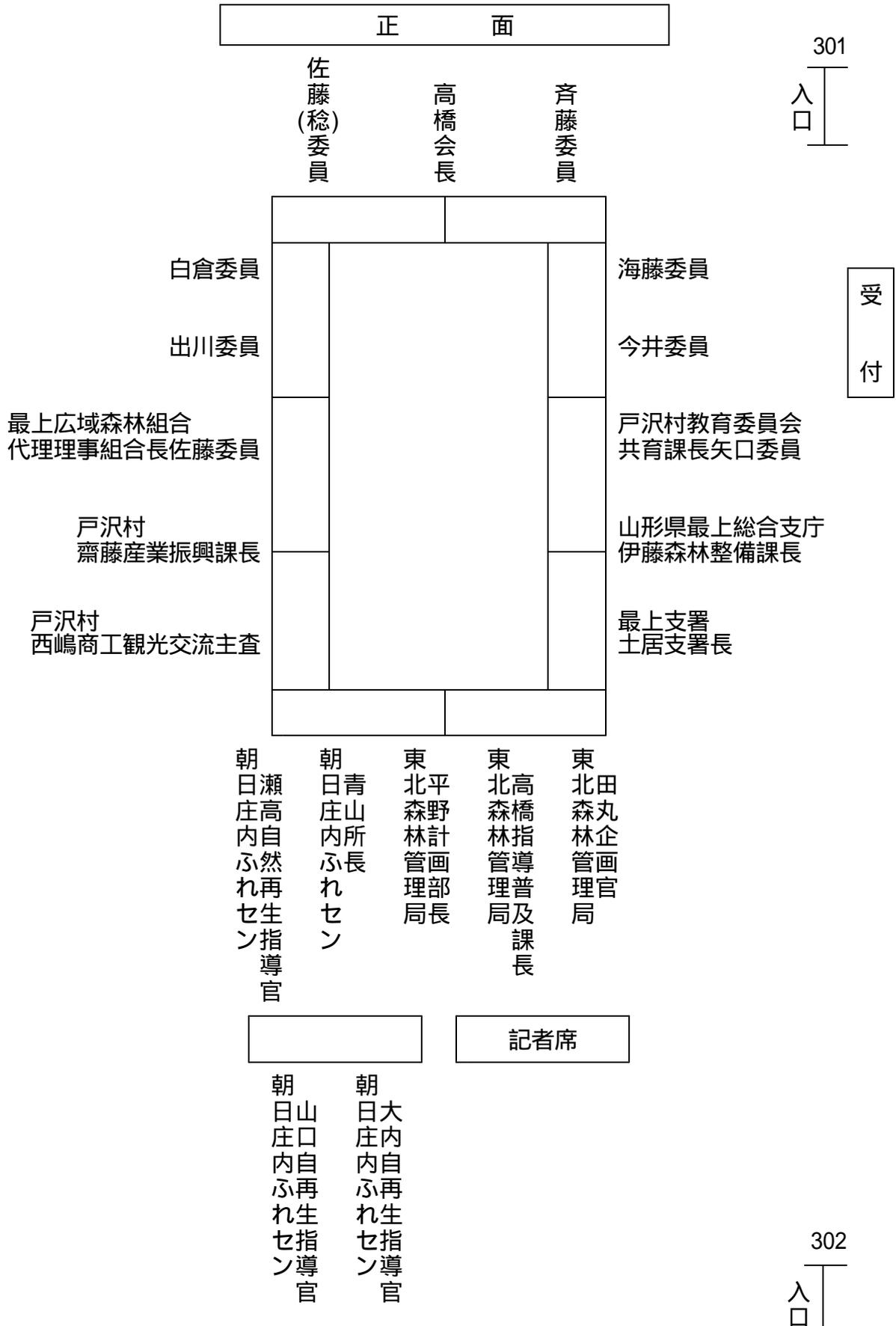
【3】みどり環境交付金事業について・・・・・・・・・・資料3

【4】参加募集について・・・・・・・・・・資料4

【5】その他・・・・・・・・・・資料5

5 閉 会

第4回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会座席表



第4回鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会出席者名簿
（委員敬称略、五十音順）

所 属 等		氏 名	出欠
委 員	希少猛禽類研究家	いまい 今井 だし 正	出席
	山形県最上総合支庁森林整備課長	いとう 伊藤 かずお 和夫	出席
	神室山系の自然を守る会会長	かいとう 海藤 きよし 清志	出席
	山ノ内地区部落会長	さいとう 斉藤 すみお 寿美雄	出席
	戸沢村産業振興課長	さいとう 齋藤 みつや 光矢	出席
	最上広域森林組合代表理事組合長	さとう 佐藤 けいいちろう 景一郎	出席
	最上峡案内人協会会長	さとう 佐藤 みのる 稔	出席
	最上エコポリス自然案内協会事務局長	しらくら 白倉 ゆういち 祐一	出席
	山形大学農学部教授	たかはし 高橋 のりお 教夫	出席
	里の自然文化共育研究所専務理事	でがわ 出川 しんや 真也	出席
	戸沢村教育委員会共育課長	やくち 矢口 はるお 晴夫	出席
事 務 局	戸沢村産業振興課商工観光交流主査	にしじま 西嶋 ひろし 洋	出席
	東北森林管理局計画部長	ひらの 平野 きんいちろう 均一郎	出席
	指導普及課長	たかはし 高橋 あずま 東	出席
	〃 企画官（自然再生）	たまる 田丸 よしつぐ 義次	出席
	山形森林管理署最上支署長	どい 土居 たかゆき 隆行	PM 出席
	〃 業務第一課長	たけだ 武田 こう 考	欠席
	朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長	あおやま 青山 いちろう 一郎	出席
	〃 自然再生指導官	やまぐち 山口 あきお 昭雄	出席
	〃 自然再生指導官	おおうち 大内 いちろう 伊智郎	出席
〃 自然再生指導官	せたか 瀬高 たかお 孝男	出席	

【 1 】平成 2 1 年度「土湯の森」づくり事業報告

1 山取苗の植え付け

(1) 目的

スキー場跡地の最も植生回復が遅れている箇所（H 2 0 年度植栽隣接地）において、ブナ等の植え付けによる森林の再生を図るとともに、活動を通じて森林の大切さなどを学んでもらうことを目的として実施した。

(2) 実施日時 平成 2 1 年 7 月 8 日(水) 1 1 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

(3) 参加者の募集方法

戸沢村校長会議で参加要請（6/2）

協議会委員あて参加要請（6/9）

ふれあいセンターホームページで募集（6/9）

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳	
戸沢村民	7 4 名	戸沢中学校1年生(52)、先生(5)、委員(1)、山ノ内地区(4)、南部活性化協議会(4)、その他(8)	
新庄市民	5 名	委員(2)、神室山系の自然を守る会(1)、その他(2)	
事務局	戸沢村役場	1 名	西嶋(商工観光交流主査)
	最上支署	2 名	管理官、森林官
	ふれセン	4 名	所長、庄司(友)、山口、庄司(卓)
計	8 6 名		

(5) 事業内容

植え付けする区域は、平成 2 0 年度植栽した隣接地 0 . 2 1 ha 程度とし、事前準備として、バックホーによる植穴掘りを実施した（図 1 及び写真 1 ~ 4 ）。

事業当日、中学校関係者はマイクロバス及びワゴン車で移動し、他の参加者は自家用車により現地へ集合した。

事務局から取組について説明後、海藤委員から客土から植え付けまでの作業方法を実演してもらい作業に移った。

客土は肥料成分を抑制（黒土と赤玉にバーク堆肥を少量加たもの）を使用した。

昨年山取したポット苗 3 2 6 本を植え付けし、約半分に防草シートを敷設した。なお、天候などの影響で午前中に植え付けが終わらなかったため、学校関係者を除いて昼食後も作業を行い予定数量を終了した。

昼食は戸沢村で活躍されている南部地域活性化協議会から山の幸を中心とした食材を使ったおにぎり汁物が出され、子供たちには非常に好評であった。

実施する予定であった火おこし体験と野鳥観察は時間の都合で未実施とした。

図1 植付区位置図



写真1 客土の混合



写真2 植穴に植栽



写真3 植付指導



写真4 「土湯の森づくり」記念撮影

(6) 配布資料

参加者に「土湯の森づくり」の資料を配布(パンフ1)

2. 刈り払いと「幻想の森」散策

(1) 目的

スキー場跡地の森林再生ゾーンに生育する高木性樹木の保育や更新補助を目的として、刈り払いを実施した。また、参加者のうち、特にアジア学院の海外留学生から日本（地域）の森林について学んでもらうために「幻想の森」で樹木や下層植生を観察した。

(2) 実施日時 平成21年7月31日(金) 9:30～12:30

(3) 参加者の募集方法

戸沢村内小中学校へ参加意向を打診（6月上旬～）
自然再生実施協議会委員あて参加募集案内を送付（7/21）
戸沢村、ふれあいセンターホームページで募集（7/21）
2009年アジア学院戸沢村研修会における留学生の参加を検討

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳	
アジア学院	17名	学院生(15うち海外留学生13)、職員(2)	
戸沢村民	18名	委員(3)、山ノ内地区(4)、その他(11)	
新庄市民	6名	委員(2)、神室山系の自然を守る会(4)	
事務局	戸沢村役場	1名	西嶋(商工観光交流主査)
	局	1名	企画官
	最上支署	1名	管理官
	ふれセン	4名	所長、庄司(友)、山口、庄司(卓)
計	48名	うち機械刈5人	

(5) 事業内容

事前踏査により、昨年刈り払いしたススキやタニウツギなどの回復状況や効果の検証等について検討した結果、平成21年度も同じ箇所を刈り払いすることとした。なお、現地の雑草木の高さは、昨年の刈り払い前より低くなったものの、森林再生ゾーンの中でも比較的多く繁茂している状況にあった（図2及び写真5）。

刈り払いは、協議会委員が指導役となり昨年と同じ森林再生ゾーン内約0.5haを実施した。また、刈り払い方法も高木性の稚幼樹を残して全刈りした。

参加者は自家用車に乗り合わせ、直接現地へ集合した。なお、アジア学院関係者は学院バスにより現地へ集合した。

事業実施前に取組の目的や刈り払いの作業方法などを説明し、9時30分～11時頃まで機械刈4名、手刈（下刈鎌）31名により作業を実施した（写真6～9）。

特に留学生にとっては、初めて見る木が多かったことや下刈鎌での慣れない作業であったことから、一部で残すこととした樹木の折損が見られた。

刈り払い終了後に「幻想の森」散策の希望者は現地へ移動し、協議会委員の講師のもと整備された歩道内を散策しながら、神代スギをはじめとする樹木や他の植物の観察を行った（写真10～11）。

留学生は、日本特産の木でもあるスギや最上峡周辺に自生しているユキツバキなどの下層植生を興味深く観察していた。特に幻想の森に自生する天然スギは、幹が地上2m付近からタコの足のように分かれているものが多く、通常のスギと違った珍しい形状をしたものが多いことから、留学生の関心を集めていた。

図2 刈払区位置図

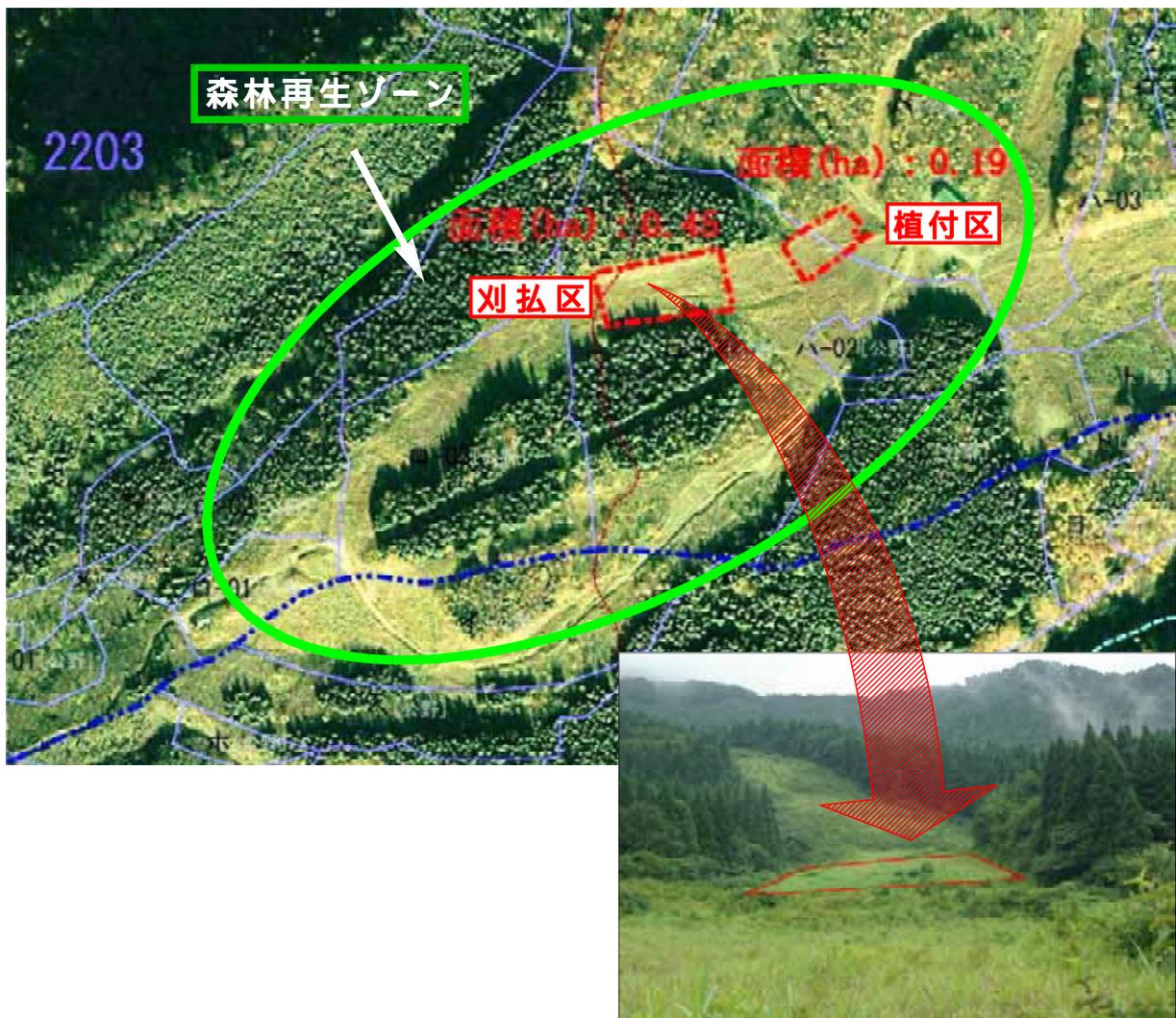


写真5 刈り払い区域（緑線内）



写真6 作業方法の説明



写真7 TV取材中



写真8 休憩!



写真9 集合写真



写真10 「幻想の森」散策



写真11 神代スギ(天スギ)の前で

(6) 配布資料

参加者に「土湯の森づくり」のパンフレットを配布した(パンフ2)

3. ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験

(1) 目的

スキー場跡地周辺で被害が拡大しているナラ枯れ被害木を処理しながら、カシナガキクイムシによる被害の知識を深める。また、被害木の処理で発生した短尺材にキノコのコマを打ち、来年以降、参加者が楽しめる機会を創出することを目的として実施した。

(2) 実施日時 平成21年11月4日(土) 9:30～13:00

(3) 参加者の募集方法

戸沢村、ふれあいセンターホームページで募集(10/16)

自然再生実施協議会委員あて参加募集案内を送付(10/16)

戸沢村緑の少年団員へ参加募集(10/30)

戸沢村内保育園へ参加募集(11/10)

(4) 参加者

参加者	人数	内 訳	
戸沢村民	10名	委員(1)、山ノ内地区(5)、森林組合(2)、その他(2)	
新庄市民	3名	委員(1)、山形県(2)	
事務局	戸沢村役場	1名	西嶋(商工観光交流主査)
	ふれセン	4名	所長、庄司(友)、山口、庄司(卓)
計	18名	チェーンソー2名(森林組合)	

(5) 事業内容

森づくりで処理する被害木を事前に調査(約40本)した。なお、被害木処理はスキー場跡地までの作業道沿いのものを優先した。

参加者は自家用車に乗り合わせ、直接現地へ集合した。

作業前にナラ枯れなど最上峡周辺で発生している森林被害やその対応について説明した後、9時30分～11時頃まで被害木の伐倒と短尺処理をした(写真12～15)。

大径木は森林組合の2名がチェーンソーで伐倒し、少し細めのものを残りの参加者が手ノコで実施した。なお、作業方法、時間の関係から当日の処理本数は20本程度となった(後日、別途処理済み)。

被害木上部のカシナガが生息しない箇所を使ったほだ木にキノコ(ナメコ、シイタケ、クリタケ)のコマ打ちを参加者全員で実施した。

参加者にほだ木のオーナー(2本/人)になっていただいた。それ以外のほだ木でできたキノコはこれからの土湯の森づくり活動で楽しんでもらうこととした。



写真12 ナラ枯れ被害木の処理



写真13 カシナガの幼虫(被害木内)



写真14 きのこのコマ打ち



写真15 集合写真

(6) 配布資料

参加者に「土湯の森づくり」の資料を配布した(パンフ3)

4. モニタリング調査

4-1. 植生モニタリング調査

(1) 目的

森林へと戻すために取り組んでいる植え付けや刈り払いなどの成果を検証し、実計画の見直しに反映させていくことを目的としている。

(2) 実施日時

平成21年10月17日(土) 9:30~14:00

(3) 参加者の募集方法

山形大学学生の調査協力により実施

(4) 参加者

参加者		人数	内 訳
山形大学		9名	委員(1) 学生(8)
事務局	森林管理局	1名	企画官
	ふれセン	3名	自然再生指導官
計		13名	

(5) 事業内容

自然再生に向けた取組の経緯(スキー場の廃止、緑の回廊、自然再生実施協議の概要等)を説明した後、(表1 調査方法)を周知して調査に入った(写真16~18)。

調査は、植栽したブナ等の稚樹と発生稚樹を把握するために設定した4プロット(森林再生ゾーン〔刈払区(図3の) 対照区(図3の)〕と自然推移ゾーン(図3の 、))を対象とした。

調査後に「幻想の森」(写真19)を散策しながら植物を観察した。

表1 調査方法

箇所		内 容	備 考
森林再生ゾーン	植付区 (全木)	・植栽木全てに テープを付し、樹種、本数、苗高を全木対象に調査。状態や被害原因(ウサギの食害)など併せ調査。(3~4人/組で実施)	H20植付 0.19HA 289本 H21植付 0.21HA 326本 (12ページ 図3の植付区的全木が対照)
	刈払区 (1箇所)	・合計4プロット(1m×10m)を調査。 ・プロット内の10個のコードラート(1m×1m)ごとに、それぞれ高木性の樹木の樹種、本数、苗高を調査。	(12ページ 図3のが調査地点)
	対照区 (1箇所)	・苗高は11cm以上を基本とし、コードラート 3と 8については、11cm未満も4プロット全てにおいて調査。(実施体制は3~4人/組)	(12ページ 図3のが調査地点)
自然推移ゾーン	(2箇所)		(12ページ 図3のが調査地点)



写真 1 6 調査方法の確認



写真 1 7 苗高調査



写真 1 8 山の恵み(アザ、ヤブドク)の試食



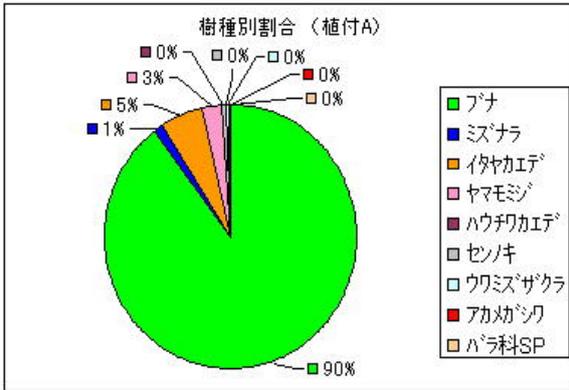
写真 1 9 幻想の森散策

図 3 調査箇所位置図



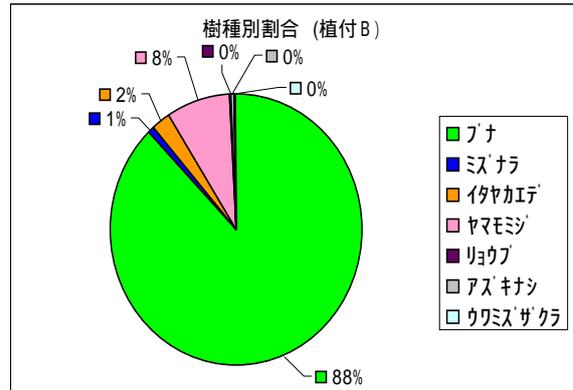
(6) 調査結果
植栽木調査

平成20年植付 (0.19ha)



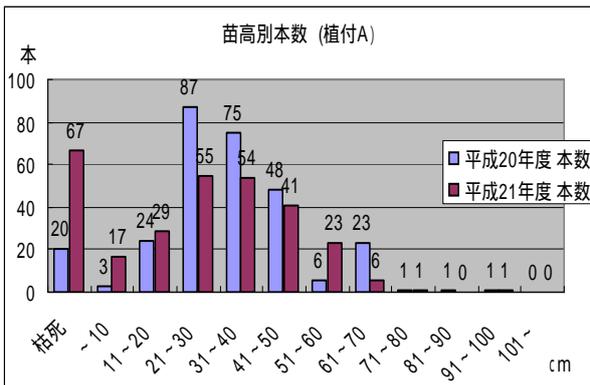
- ・山取苗を使用 (スキー場跡地外)
- ・ブナが主体 (90%)

平成21年植付 (0.21ha)



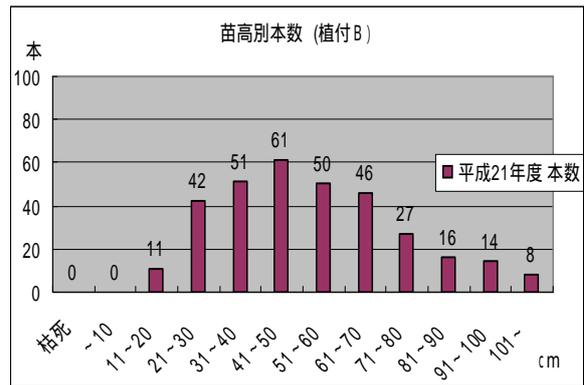
- ・山取苗を使用 (スキー場跡地内)
- ・ブナが主体 (88%)

(H20植付 289本)

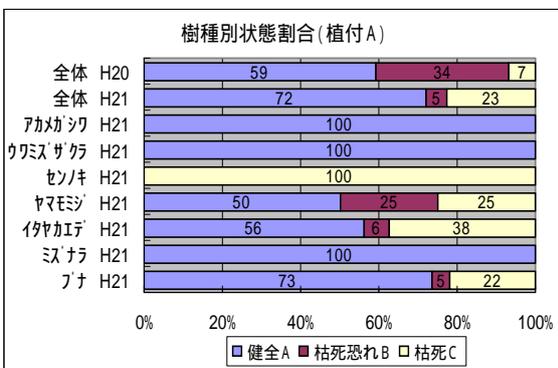


- ・平均苗高35cm (H20) 34cm (H21)
- ・苗高減少はウサギによる枝や頭梢部の食害が主な原因 (写真20)

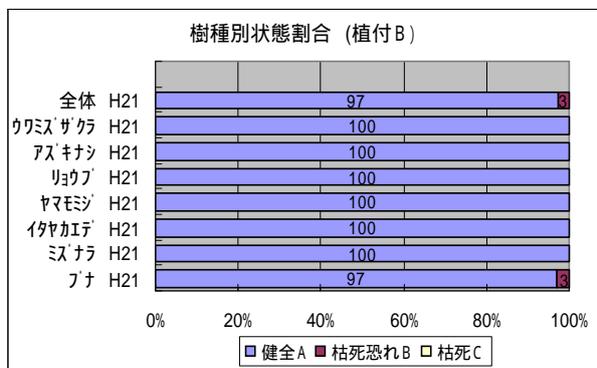
(H21植付 326本)



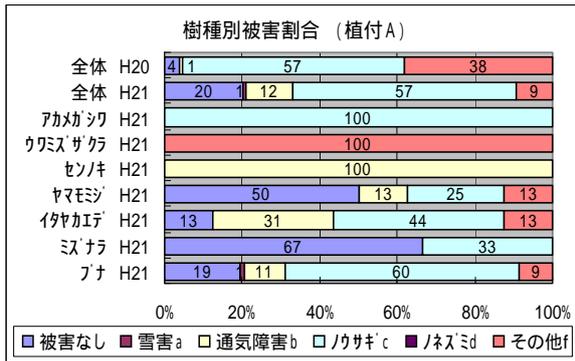
- ・平均苗高53cm (H21)



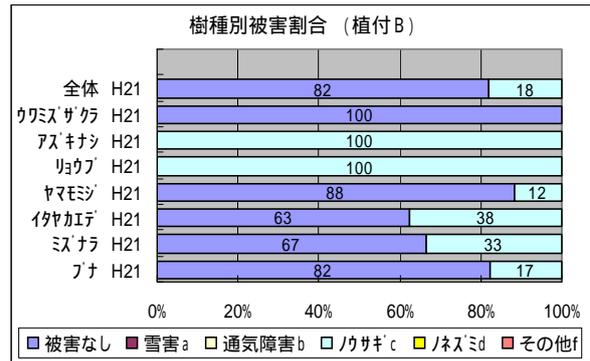
- ・正常活着59% (H20) 72% (H21)
- ・枯死 7% (H20) 23% (H21)



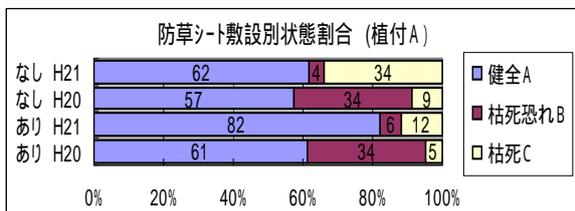
- ・正常活着97% (H21)
- ・枯死 0% (H21)



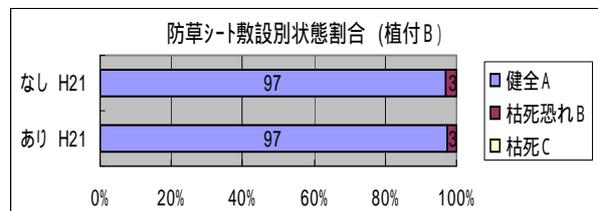
- 被害なし4% (H20) 20% (H21)
- 数は少ないがノネズミによる食害もみられる (写真21)



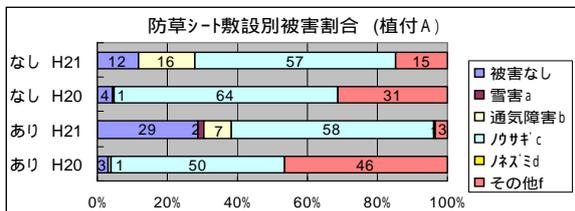
- 被害なし82% (H21)



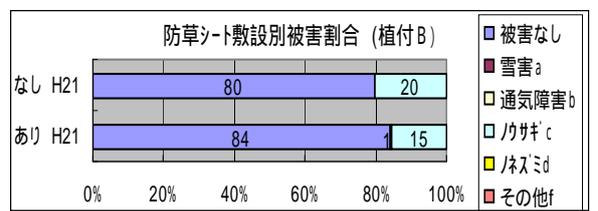
- シート有：健全61% (H20) 82% (H21)
- シート無：健全57% (H20) 62% (H21)



- シート有：健全97% (H21)
- シート無：健全97% (H21)



- シート有：被害無3% (H20) 29% (H21)
- シート無：被害無4% (H20) 12% (H21)
- シートを敷設した樹木の成績が若干良好



- シート有：被害無84% (H21)
- シート無：被害無80% (H21)

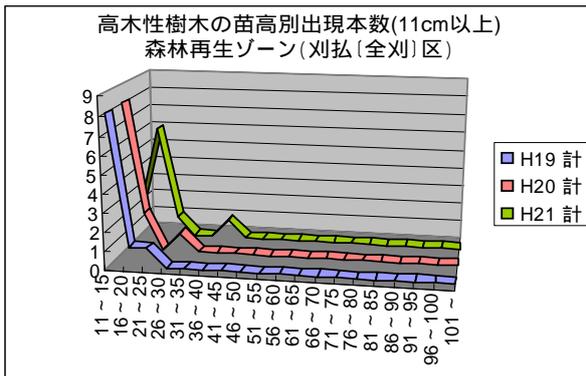


写真20 ノウサギの食害



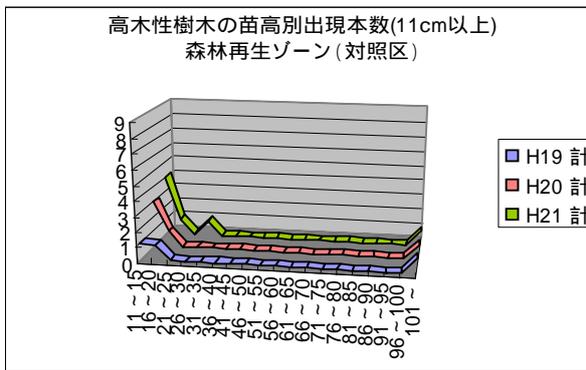
写真21 ノネズミの食害

発生稚樹調査 (P12 図3の)



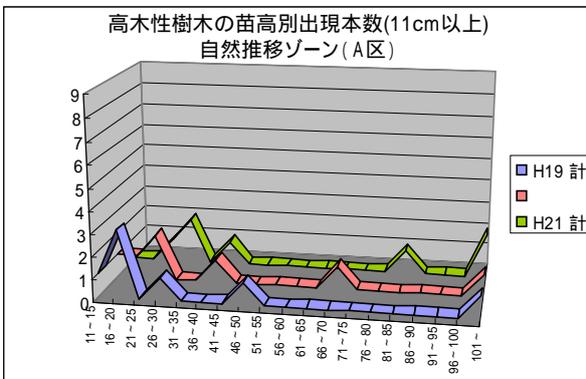
- ・3年連続で刈り払いした区域内の調査。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギのみ(昨年と同じ)。
- ・稚樹の本数はH21で10本へH20から1本減少したが全体的に少し苗高の生長が見られる。(31cm以上の稚樹は1本)
本数や生長に大きな変化がなく、今のところ刈り払いの成果は見られない。プロット外では数は少ないがイタヤカエデやアカマツなど急激に生長した樹木も見られる。

(P12 図3の)



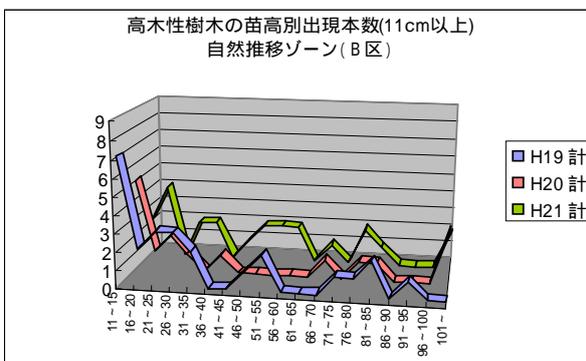
- ・対照区であるプロット内の調査。
- ・プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみ(昨年と同じ)。
- ・稚樹本数はH21で7本へH20から2本増加。苗高はあまり変化が見られない。
- ・31cm以上の稚樹は1本(昨年1本)。

(P12 図3の)



- ・自然推移ゾーンのプロット内の調査。
- ・プロット内の実生木(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみ(昨年と同じ)。
- ・実生木本数はH19~H21の間7本と変化がないが、全体的に生長が見られる。
- ・先駆樹種のアカマツの生長が良い。
- ・31cm以上の稚樹は4本(昨年3本)。

(P12 図3の)



- ・自然推移ゾーン内の林縁部近くのブナが生育する場所にプロットを設け調査。
- ・プロット内の実生木(11cm以上)はスギの外4種類の樹種が見られる(昨年と同じ)。
- ・実生木本数はH21で23本へH20から7本増加し、苗高の生長も見られる。
- ・特にヤナギの生長が良い。
- ・31cm以上の実生木はH21で15本、H20より8本増。

本数、苗高とも順調に更新している。

4-2. 動物モニタリング調査

(1) 目的

自然再生実施箇所の周辺に生息する動物の生息状況を把握する。

(2) 実施日時

平成21年6月17日(水) ~ 11月14日(土)

(3) 調査方法

スキー場跡地と周辺に赤外線センサーカメラを設置し、1～3週間後に回収して解析した。スキー場跡地(草地)では直射日光等による誤動作が多かったため2回の実施に留まったが、周辺の林地を主体に延べ22回実施した。誘因のため適宜サバ缶、バタピー、牛脂等を用いた。ふれあいセンター職員が単独で実施。

(4) 調査結果

全撮影枚数872枚のうち64枚(7%)に、9種の哺乳類と2種の鳥類が記録された。記録数が多かったのはタヌキとアカネズミであった。

表 センサーカメラ設置箇所と記録された動物

設置箇所	No	設置回数	撮影枚数	ヒト	タヌキ	テン	リス	ハクビシン	ノウサギ	コウモリ	クマ	ネズミ	カモシカ	ヤマドリ	クロツグミ	虫	計	
仮植箇所	1	1	18	2													2	11%
取水口	2	3	129		6							1				8	15	12%
植付下部	3	1	44														0	0%
林道脇	4	9	213	1	14	2	1	2	1	1	2	4	1	2	1		32	15%
植付脇	5	4	214		1												1	0%
歩道	6	2	102	1												3	4	4%
林道脇	7	2	152									4				6	10	7%
計		22	872	4	21	2	1	2	1	1	2	9	1	2	1	17	64	7%



ツキノワグマ



タヌキ



ハクビシン



カモシカ



ノウサギ



テン



リス



ヤマドリ



クロツグミ



アカネズミ

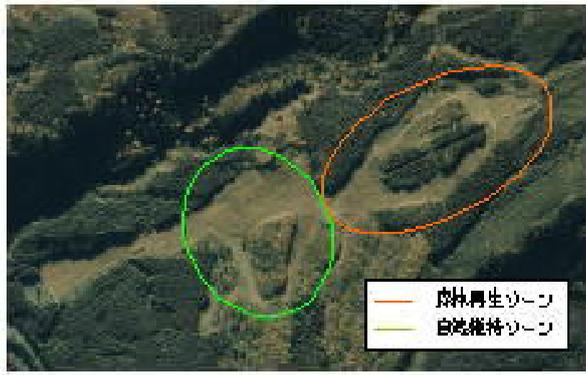
5. 「土湯の森づくり」看板設置

みどり環境交付金事業により最上川スキー場跡地の植栽試験地に看板を設置しました。

Nature Restoration in Tutiyu-no-mori
「土湯の森」づくり ～自然再生活動に参加しませんか～



森づくりの考え
 スキー場として開発された場所が森林へと戻るためには、風の速くなるような年月を必要とします。「土湯の森」では、
 ①自然回復力の最大活用
 ②市民参加の活動と連携
 を森づくりの基本的な考えとして取り組んでいます。



— 森林再生ゾーン
 — 自然維持ゾーン

目指す森林の姿
 たくさんの生き物が生育・生息できる環境を守って確保していくため、ブナなどの広葉樹を中心とした天然林の再生を目指します。



森づくりのご案内
 森林再生ゾーン内では、植え付けを始めとした森林再生の体験学習を行うフィールドとして活用できます。森づくりのほか自然の中で行う森林環境学習などにも利用できます。

実施計画 → 森づくり
 自然再生実施協議会
 検証・見直し ← モニタリング

岡海朝日・飯置吾妻緑の回廊自然再生実施協議会
 事務局：戸沢村・東北森林管理局朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター tel.0235-58-1730



- ・自然再生ゾーンと自然維持ゾーンに分けて、森づくりの考え方を示しています。
- ・多くの動植物が生活できる森林環境を確保するため、目指すべき森林づくりを解説しています。
- ・森林再生ゾーン内では、森林環境学習を行うフィールドとして植付、下刈の体験活動にも活用しています。

【2】平成22年度「土湯の森」づくり事業計画

自然再生実施計画における「年次計画（表2）」及び前年度の事業実行結果等を踏まえ、以下により実施する。

1. ススキ等の刈り払い

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・森林再生ゾーン内0.64ha(H19年度0.45ha、H20年度0.19ha)実施。	・森林再生ゾーン内0.85ha(H21植栽箇所0.21ha含む)。 ・天然下種更新や保育作業として有効な箇所を選定。
時期	・7月31日(金)実施。 ・調査時では刈り払いによる大きな効果は見られない。	・6月下旬～8月上旬頃実施。 ・複数の希望がある場合は、時期、面積、場所を含め検討。
その他	・アジア学院の農村指導者研修の一環として留学生も参加。 ・留学生から評価を得た一方、不慣れな作業のため、誤伐も見られた。	・戸沢村行事との合同実施も検討。 ・実施に当たっては、残存木の表示や作業前の説明を徹底。

2. モニタリング調査

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案	備考
面積	・森林再生ゾーン内刈払区、対照区、H20・H21の植付区(全木) ・自然推移ゾーン内の地点	前年度同様 (現状の実績把握が急務であるため植付の拡大は行わない)	P12の図3参照
時期	・10月17日(土)実施。	・10月頃実施。	
その他	・山形大学生と協議会委員の協力により実施。 ・センサーカメラにより哺乳類9種(ツキノワグマ・タヌキ・テン等)、鳥類2種(ヤマドリ・クロツグミ)を確認。	・調査の継続という面から、同様の実施が望ましい。 ・募集案内をした小学校の反応等を見て実施を検討。 ・ふれセンにおいて、センサーカメラ及び目視による動物の種類等を取りまとめ。	

3. ブナ等山取苗の植え付け

	前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
面積	・H20(0.19ha)箇所の隣接地0.21ha程度。	<p>試験的に予定した箇所の植栽は、H21年度(0.21ha)に完了したことから、当面経過を観察することとし、本年度事業としては計画しない。</p> <p>ただし、学校等から継続を望む声もあることから、具体的な要請があった場合は、小規模に対応することとする。</p>
時期	・7月8日(水)実施。 ・モニタリング調査時では大きな枯死は見られない。	
植栽間隔	・2.5m×2.5m(正方形植)	
植栽本数	・326本/0.21ha(1,552本/ha)	
防草シート	・147本(45%)で敷設。 ・調査時では本来の目的である防草効果は見られる。 ・期待した乾燥防止効果について優位性は見られない。	
事前準備	・機械による植穴の耕耘、客土の混合の事前準備により子供による植栽も順調に行われた。 ・調査時では機械使用による活着等の効果で優位性は見られない。	
その他	・何らかの被害を受けた植栽木は80%(殆どが、ノウサギの食害57%)と多い。H20の被害木96%に比べたら低い数値となった。 ・調査時の枯死は0%である。	

4. 林道等の浸食防止ならびにナラ枯れ被害対策

土湯林道分岐からスキー場跡地(中腹)までの作業道は、一部雨水等による浸食が見られる。また、スキー場跡地内の作業道は昨年実施された無線中継施設関係工事により新たに敷砂利がなされている。経過観察の上、また他工事の計画内容を踏まえ、必要に応じて横断排水溝等設置による浸食防止対策を講じる。(隣接地の間伐材の活用を検討)

また、ナラ枯れ被害木の短尺処理についても、昨年実施箇所の処理効果を検証の上、被害状況に応じて実施を検討する。

【3】みどり環境交付金事業について

1. みどり環境交付金事業の審査結果について

昨年に引き続き実施する植え付けや刈り払い、植生のモニタリング調査など森林再生活動について、「みどり環境交付金事業」として山形県において審査され、計画のとおり承認された。

2. 事業個別計画

番号	1	区分	・基本配分枠	・特別配分枠	
事業項目	1森林・自然環境学習 2自然環境の保全活動 (3豊かな森づくり活動) 4森林自然の利活用				
事業名	土湯の森づくり推進事業				
事業の目的	(事業の目的・概要を記載) 最上川スキー場跡地において、広葉樹の植栽や植生モニタリング調査等を実施しながら森林再生していく中で、自然観察や森林環境学習等を実施し、森林の持つ重要性を学ぶ。(H20年度より継続)				
事業内容	実施時期	実施場所	事業内容	目標参加人数	事業量
	6月～7月	戸沢村 大字古口	広葉樹植栽	80人	100本 (補植程度)
	7月	地内	刈払い	40人	0.85ha
	10月		植生モニタリング	30人	
	3月		森林学習	30人	小学生を対象に木材 や木の実等を使用した学習
関連する他事業の有無	(みどり環境交付金事業以外で当該事業と密接に関わっている事業を記載) 有 (事業名:) ・ (無)				
事業効果	(波及効果等を具体的に記載) 荒廃したスキー場跡地を森林に再生することで、周辺を含めた森林環境の保全と野生動植物の生息及び生育地の確保など、森林保全の大切さへの意識を高める。				
事業実施期間	平成22年 6月 1日 ~ 平成23年 3月31日まで				
事業費(千円)	341千円				
事業区分(事業経費)	数量	金額	積算基礎		
報償費	6人	60	千円 森林学習指導謝礼 @10,000×6人		
需用費	2回	50	敷砂利 @25,000×2回		
	4回	20	森林環境学習教材 @5,000×4回		
	180人	36	環境学習資料 @200×180人		
役務費	180人	13	保険料 @72×180人		
使用費	10台	10	刈払機 @1,000×10台		
	2台	2	チェーンソー @1,000×2台		
	3回	150	バックホー @50,000×3回		
小計		341			

【 4 】参加募集について

参加者の募集方法は次のとおり。

前年度実施結果・問題点等	本年度計画案
<ul style="list-style-type: none">・学校への対応 H21年早期にに近隣の市町村（1市8町村）教育委員会に小・中学校への案内を依頼（リーフレット）。事業前に個別の学校等へ案内。・その他 委員への案内。 戸沢村ホームページ掲載。 戸沢村広報誌募集掲載 ふれセンホームページへ掲載。 新聞記事掲載。 他施設のパンフレット置場等を活用した募集を実施。	本年度も昨年同様に実施。

リーフレット

鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会
「土湯の森」づくり
 ～ 最上川スキー場跡地の森林再生と自然あそび ～



自然の中で森づくりや動植物の観察のほか、ネイチャーゲームなどをして楽しめます。

森の案内人（事務局スタッフほか）が、みなさんをご案内します。



日程	プログラム	対象	参加費
6月上旬	ブナ等稚樹の植付と自然観察（タネ模型作成）	小学生以上一般	無料
7月下旬	刈払いと川（沢）あそび	小学生以上一般	無料
9月下旬	モニタリング（植生調査）	小学生以上一般	無料
10月下旬	間伐とおおこし体験（焼きも作り）	小学生以上一般	無料

プログラムは、基本となる内容を記載したものです。
 実施時期や内容（森林環境教育）については、ご要望をふまえて企画させていただきます。
 ご希望やご質問など事務局までお気軽にお問い合わせください。



事務局

戸沢村産業振興課
 〒999-6404 戸沢村大字古口270
 TEL: 0233-72-2111
 FAX: 0233-72-2116
 または
 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 〒997-0404 鶴岡市下名川字落合3
 TEL: 0235-58-1730
 FAX: 0235-58-1731
 （詳細内容のお問い合わせはこちらへ）

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの活動をホームページでご案内しています。
<http://www.fureai-kokuyurin.jp/>

◎交通のご案内
 JR新庄駅から車で55分（うち林道10分）

東北森林管理局

ホーム > 森林管理局の案内 > 森林管理局の概要 > 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター > 主な活動地域と取組 > 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊 > 土湯の森自然再生

朝日庄内森林環境保全
ふれあいセンター



土湯の森自然再生

森づくりの基本方針

最上川スキー場跡地をブナやミズナラなど広葉樹を中心とした天然林に復元し「緑の回廊」の機能を回復する活動を行っています。
この活動では、自然の回復力を活用することを原則としながら、豊かな森林に戻していく手助けを市民参加によって行っています。
また、森林に直接触れ合う再生活動を通じて、自然の働きや人の生活との関わりなどを学ばせながら、自然再生の大切さを期待しています。
森を育て、森に親しみ、森に学ぶ、楽しみながら進める森づくりに皆様の参加をお待ちしています。



自然の中で森づくりや動植物の観察のほか、ネイチャーゲームなどをして楽しみます。

森の案内人(事務局スタッフほか)が、みなさんをご案内します。

活動報告

モニタリング調査報告

TOPICS

- 「ナラ枯れ被害木の伐倒とキノコのコマ打ち体験」(PDF: 54KB)を実施しました。平成21年11月14日
- モニタリングを実施しました。平成21年10月17日
- 刈り払いを実施(PDF: 55KB)しました。平成21年7月31日
- ブナ等の植え付けを実施(PDF: 64KB)しました。平成21年7月8日
- 第3回自然再生実施協議会を開催しました。平成21年5月20日
- 「土湯の森」づくりのHPをオープンしました。平成21年5月15日



「土湯の森づくり」案内板

現地マップ



交通のご案内JR新庄駅から車で55分(うち林道10分)

写真 [国道入口 \(JPG: 67KB\)](#)
[土湯林道分岐点 \(JPG: 103KB\)](#)

基本構想/実施計画

土湯の森自然再生基本構想

- [自然再生で取り組む基本方針 \(PDF: 706KB\)](#)

土湯の森自然再生実施計画

- [自然再生事業で取り組む内容 \(PDF: 1,866KB\)](#)(平成19～平成23)

鳥海朝日・飯豊吾妻線の回廊(土湯の森)自然再生実施協議会 事務局

戸沢村産業振興課
 〒999-6404 戸沢村大字古口270
 TEL: 0233-72-2111 FAX: 0233-72-2116

または

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 〒997-0404 鶴岡市下名川字落合3
 TEL: 0235-58-1730 FAX: 0235-58-1731
 (詳細内容のお問い合わせはこちらへ)



ご意見・お問い合わせ・参加申込などご連絡ください。

メールは[こちらから](#)

PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号 (代表電話)018-836-2014

Copyright:2008 TOHOKU Regional Forest Office

